中国の神話

天地を分けた巨人

君島久子

中国の神話・もくじ

164/中国の神話

世界の神話 7

210pp／18.8cm／四六判

著者略歴

木県に生まれる。慶応義塾大学卒業，大学大学院修了，武蔵大学教授を経国立民族学博物館教授。『西遊記』で日本翻訳文化賞，『白いりゅう 黒』（岩波書店）でサンケイ児童出版受賞。『チベットのものいう鳥』（岩『アジアの民話』（講談社）他多数の著書がある。

（執筆協力者）新島翠。1946年東京に生まれる。成蹊大学卒業。現在成蹊大学講師。国立民族学博物館共同研究員。

1983年2月25日　第1刷発行
1983年7月25日　第2刷発行

著　者　君島久子（きみしまひさこ）

発行者　布川角左衛門（ぬのかわかくざえもん）

発行所　株式会社 筑摩書房（ちくましょぼう）

東京都千代田区神田小川町2－8
電話 東京 (291) 7651 (営業)
(294) 6711 (編集)
郵便番号101-91　振替東京6-4123

多田印刷・積信堂

©1983 H. Kimishima, Printed in Japan

乱丁・落丁本の場合は，御面倒ですが，小社読者係宛に御送付下さい．送料小社負担にてお取替えいたします．

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

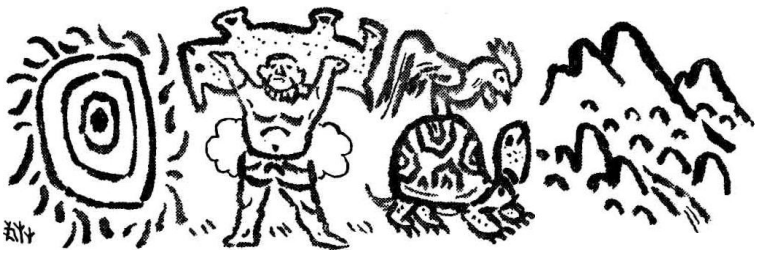
盤王の伝説（ヤオ族） 92
竹の息子たち（イ族） 105

Ⅲ 天と地の神話

太陽をさがしに（チワン族） 121
月へのぼった女神（漢民族） 126
七人の兄弟星の物語（チベット族） 130
水仙姫（ヤオ族） 134
天神・地神――岩になった若者（蒙古族） 139

Ⅳ 起源伝説

火の神と煙の神（シェ族） 149
穀物の種の来歴（チベット族） 159
紅い箱――文字のはじまり（イ族） 181



天上から稲をぬすむ（ハニ族）　187
いれずみのはじまり（リー族）　195
本書に収めた作品について　201

装幀・さしえ　田沢　茂

中国の神話

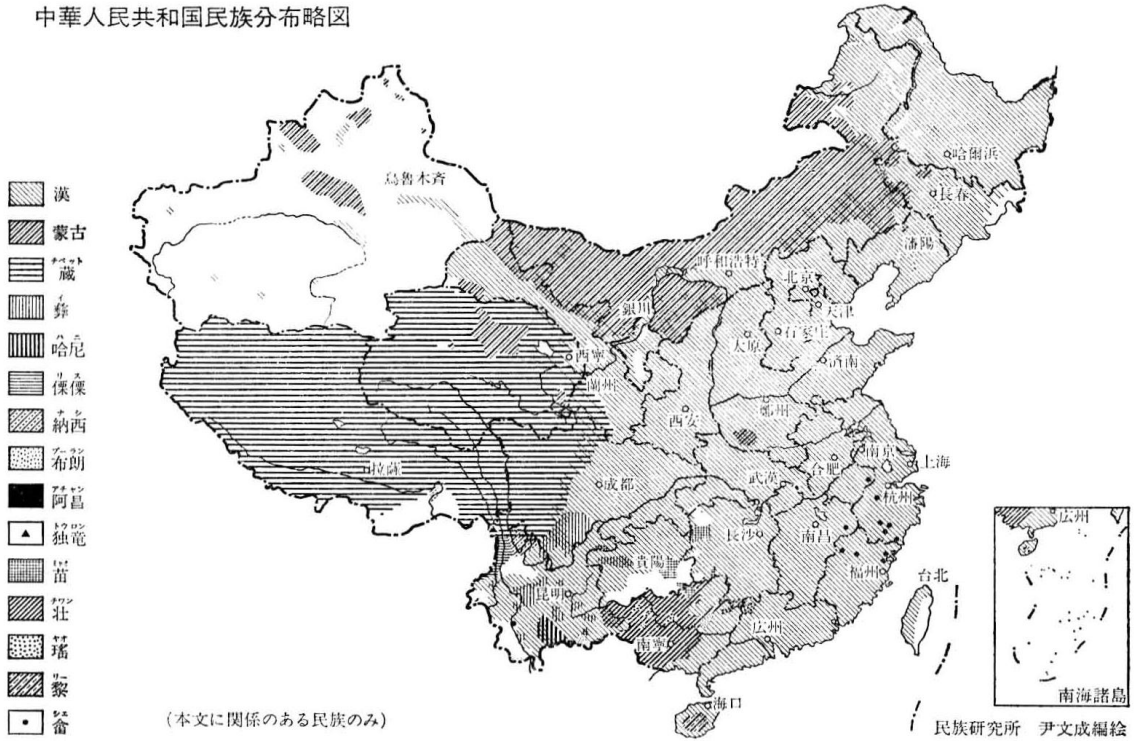
はじめに——少数民族の伝承神話について

民間伝承の発掘

もしあなたが、今、北京空港から飛び立ったとします。つめたくほおをさす寒気の中をオーバーの襟をたてて空港までやってきたあなた。でも、まっすぐ南に飛んで広州におり立てば、青々とヤシの葉が茂り、まぶしい太陽がきらきらと映えているでしょう。そして、もうひと飛び、西へ——。そこは昆明。常春の国、春城とよばれて、一年中四季の花々が咲き乱れています。それから少し西南のシーサンパンナへ。窓辺に夏虫がすだき、優雅なカヤをつって夢路をたどります。こんなにも広い中国、ヨーロッパ全土よりも広い大陸。そこでは五十六種もの民族が、それぞれ自らの伝統的文化をもち、悠久の歴史をささえてきたのです。

当然、各民族が神話を伝えているはずなのですが、漢民族を除く、他の民族の多くには文字というものがありませんでした。そのために、実にたくさんの神話が、口伝えに代々伝承されてきました。それは地下に埋蔵された金銀宝石のように、蓄積されているのです。

中華人民共和国民族分布略図



(本文に関係のある民族のみ)

民族研究所　尹文成編絵

今、中国はその無尽蔵の宝を、発掘しはじめたところです。文字のない人びとの口伝えの伝承を、次つぎに掘りおこし、採集をしています。この事業は、一九五〇年、つまり解放の翌年から開始されました。しかし六〇年代に入り、文化大革命という暗いときが流れて、やっと七七年になってその事業は復活したのです。

最近の中国の民間伝承の研究と採集の事業は、めざましい発展をつづけ、新たな出版物がぞくぞくと刊行されはじめました。「民間文学」をはじめとして、地域的にも、雲南の「山茶」貴州の「南風」福建の「榕樹」と、また民族的にも「苗族民間故事」「蔵族民間故事」「瑤族民間故事」等々、各民族の手による民話集が出されており、おのおの特色を発揮して、今まで知られなかった民間の伝承が、おどろくほど豊富に発掘されています。

少数民族ミャオ族の人びと（撮影著者）

従来、中国の神話は断片的だといわれていました。これは「子は、怪力乱

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

神を語らず」といって、伝承のたぐいを空想や迷信としてしりぞけた漢民族の現実主義にもよりますが、そのために、歴史の中に、あるいは経典の中に織りこまれて、伝承は切れ切れになってしまいました。だからといって、神話が無かったということではありません。残されなかったのです。しかしその切れ切れの断片が、今、掘りおこされつつある豊かな口頭伝承によって、みごとに復元され、その全貌をあらわしてゆくでしょう。しかし、それにはこれからも、かなりの時間がかかります。今は、その新しく採集されたばかりの伝承の中から、こんなに、目を見張るような神話が、このような民族の間に語られているのだ、という現状をみなさんにお知らせする段階です。

天地創造神話について

「天地を分けた巨人、盤古」や「羿、太陽を射る」や「月へのぼった女神」などは、神話の断片として、古典の中に記録をとどめたもので、そのため、一応漢民族のものとしておきました。そのほかはできるだけ、新しく採集された少数民族の神話をのせました。

雲南省の南端国境地帯のプーラン山に住むプーラン族の間に口伝えに伝えられた「巨人グミヤー」。この物語のなかには、日本の神話にも見られる天の岩戸などが語られています。わたくしがプーラン族の村を訪れたとき、村人たちが総出で物珍しげにわたくしたちを囲み、その中

には百二十歳になるおごそかな老人もいて、ふっと、グミヤーの子孫かも、と思ったものでした。

天地創造の旗手には、このほかにも、彝族の「巨人ニジガロ」、ラフ族の「チヤヌチャベ」などいくつもありますが、阿昌族の「チプマとチミマ」はまだ一度も紹介されたことがないのでこれをとりあげました。

民族の創世を語る神話

人類の始めを物語るものとして、文献の中には、女媧という女神が人間を創り出す話があります。土をこねて、ていねいに人形を一つ一つつくっていましたが、やがて、つかれはて、あきてしまって、縄のはしを泥の中にひたして、ぶるんぶるんとふりまわし、とびちったものが人間になります。この粗製濫造した人間たちは貧乏人、ていねいにつくったほうは身分も高く金持ち、というのです。なんだか、ユーモラスで、ちょっぴり悲しいような物語ではありませんか。

そこで、この本には、トウロン族の間に口頭で伝承されている、「土をこねて人をつくる」話をのせました。

さきにもふれましたように、今日少数民族といわれている人びとの中に、実に雄大な創世を物語る伝承が語り伝えられています。

その代表的なひとつに納西族の「人類遷徙記」が挙げられます。

Cōzzeilèe hgeehgee, zhuāhgee nzēe me njū, nzēe shū mee la ndo; Cèi hēe bbu bbēmì, nbeehgee bbū me njū, bbū shū ddū la szā。Pērnà ddée gaizhù, sī Ka Iomū bbā, ddee Kv̀ ni jjū bbā, ni jjū pēr lv la; ninee qū gobv̀, ni qū lei gobv̀; ni nzēe hgee mei ddee dèr guē, nì dèr hgee mei ddee bbū gguē。 Cōzzei Lèe hgeehgee, bbā per ddee gè zēi; Cèi hēe bbubbē mì, go pēr ddee mei zēi; bba pēr tee ddee gè, go pēr ndv niē nì, nzī lei mee jēr Cēi hò dù, hei yi mee gge Kv̄ niē tv̄。

（摘译自《Cōnbertv人类迁徙记》一书）

ナシ族の絵文字

ナシ族は、古くは、麽些などと呼ばれて、唐代の文献に記されている人びとで、唐代には現在のイ族（羅羅）と共に、南詔という独立王国を立てていました。

ナシ族には、東巴（トンバ経の伝承者）の伝承する独特の絵文字があり、この絵文字と口頭によって今日まで神話をはじめとする民間伝承を代々伝えてきました。絵文字の読解は、なかなかむずかしく、ここに訳出したものは、絵文字研究の第一人者である、ナシ族の和志武教授（雲南省歴史研究所主任）の解読された「人類遷徙記」です。この春昆明でお目にかかったとき、絵文字の一部を、わざわざ筆者のために描いてくださったので、それも上にあげておきます。

イ族は昔、羅羅と呼ばれ南詔王国の支配

層を構成していました。このイ族には、竹を尊び先祖として祭る風習があり、いわゆる竹トーテムであるという説がありますが、「竹の息子たち」というこの民話はそれを裏づける貴重な資料ともいえます。

古い文献のなかに竹王伝説があります。

ある川で女性の足の間に、三節の大竹が流れ入り、その女性から生まれた男の子が、やがて夜郎国の王になったという話ですが、この国が、現在のどの民族に属するのかまだ定かではありません。苗族であるとか、僚族であるとか、このイ族であるとか、中国ではさまざまな説があって、論争になったほどです。

わたくし自身も、四川省の竹の里で、竹から生まれた娘の話を採録してきましたし、また十年ほど前、同じく四川省のチベット族に伝わる「竹娘説話」を学会で発表しましたとき、それが日本の「竹取物語」にそっくりであったところから、国文学界でも話題になりました。

このイ族といいますのは、チベットビルマ系語族に属しておりますので、夜郎国論争が今後どのように展開するかも楽しみですし、またこの「竹の息子たち」の存在も注目されることでしょう。

同じ系統に傈僳族の創世記がありますが、この話も本邦初訳で、リス族の玉木樟先生が採集され、社会科学院民族研究所研究員の徐琳女史が初めて漢訳されたものです。このたび来日

馬王堆の帛画に描かれた神話

この犬祖伝説は、畲族にもあり、またミャオ族にも一部あるといわれております。この話は、「後漢書南蛮伝」や「搜神記」にも、その類話が記されているので、いかに古くからの伝承であるかがわかります。ここに紹介したものは、北京中央民族学院の劉保元先生（ヤオ族）が、広西のヤオ族の村に入って自ら採集してきた話を、わたくしにくださったものです。

復元への夢

中国の古文献に記された神話は、すでに、「詩経」という周の時代（紀元前十世紀）に書かれされ、特にわたくしに邦訳して紹介してほしいということでした。

さて、瑤族の盤瓠説話ですが、

た書物にあります。

「天は、玄鳥に命じて、降りて商（殷）を生ましむ」というもので、殷代の王は、玄鳥から生まれたという始祖伝説です。また南方には「楚辞」があり、豊かな神話をうたいあげています。

その後、春秋戦国時代から、漢代にかけて（紀元前五、四世紀～一世紀）さまざまな神話が書かれていますが、先に述べましたように、現在ではその一部が残っているのみです。

しかし、最近の中国では、発掘の事業も盛んで、長沙の漢墓から発掘された、かの馬王堆の帛画には、神話の世界がみごとに描かれており、注目をあびました。帛画の中には、本書にあげた九つの太陽や、太陽の中のカラス、月へ昇る女神の姿がみられるほか、天地を分けた巨人らしき人物もみとめられます。

また、雲南省の石寨山や、李家山などの出土文物、各地の画像壁や洞窟絵画からも、神話の要素をくみとることができます。

今、文字なき少数民族の、連綿として伝えてきた豊かな口頭伝承の採集によって、断片的な文献記録が問いなおされ、やがて中国の神話の体系が、新たにかたちづくられることも可能となるでしょう。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com